

新型インフルエンザ対策シリーズ①

1997年以降、H5N1型鳥インフルエンザが鳥から人に感染する事例が続いています。こうした状況のなか、新型インフルエンザの発生は、時間の問題といわれています。新型インフルエンザが発生したら、私たちが体験したことがないような大流行が起これ、多くの人が犠牲になることが心配されています。

そこで新型インフルエンザの流行に備え、住民の皆さまに正しい理解と準備を進めていただくために、新型インフルエンザ対策の情報を随時お知らせすることにしました。

《新型インフルエンザを正しく理解する！》

新型インフルエンザ対策として、まず大事なことは、正しい知識を持つことです。新型インフルエンザが発生したときにも落ち着いた対応ができるよう家族で話し合って理解を深めておきましょう。



新型インフルエンザとは？

従来は人に感染しづらかった鳥インフルエンザが変異し、人から人へ感染するようになったものが『新型インフルエンザ』です。だれも免疫をもたないため、大流行します。

ふつうのインフルエンザとはどう違うの？

H5N1型鳥インフルエンザから発生した新型インフルエンザの場合、毒性が強く、発熱や呼吸器症状だけではなく、多臓器不全や重症肺炎などをおこして重症化する危険な感染症となる可能性が高いのです。

若い世代で重症化の可能性も

通常のインフルエンザなら健康な人が死亡することはほとんどありません。しかし、H5N1型鳥インフルエンザが人に感染すると、致死率が60%を超えるような強い毒性を示し、特に若い健康な人ほど重症化して、死亡する例が多数報告されています。そのため、乳幼児や高齢者に限らず、全世界で感染しないよう注意する必要があります。

新型インフルエンザの発生は時間の問題

現在、新型インフルエンザのもとになるH5N1型鳥インフルエンザは世界中に広がっており、これをなくすことは不可能です。インフルエンザウイルスは非常に変異しやすく、人から人へ感染するウイルスに変化するの“もしも”ではなく“いつ来るか”の問題とされています。

これまでにあった「新型インフルエンザ」			
20世紀には、スペインかぜ、アジアかぜ、香港かぜの3度の新型インフルエンザの大流行がありました。			
	スペインかぜ (1918年)	アジアかぜ (1957年)	香港かぜ (1968年)
死者数	4000万人	200万人	100万人

新型インフルエンザの感染経路

新型インフルエンザの患者からの感染は、通常のインフルエンザと同じように飛沫感染、接触感染、空気感染が考えられており、感染の可能性があるのは、患者が発症した日の24時間前から、解熱した日を0日目として解熱後7日目までに患者と接触した人です。

【新型インフルエンザの感染経路】

○飛沫感染とは

ウイルスを含んだ大きな粒子（飛沫）が、咳・くしゃみ・会話などにより飛散し、他の人の鼻や口の粘膜あるいは結膜に接触することにより感染します。飛沫は空気中を漂わず、1～2メートル程度しか到達しません。

○接触感染とは

患者の血液、体液、分泌物（汗を除く）、排泄物などに、マスクや手袋など防護装備をせずに触れたときに感染します。

○空気感染

ウイルスを含んだ小さな粒子（飛沫核）が拡散し、これを吸い込むことによって感染します。

【お問い合わせ先】 大崎町役場 保健福祉課 健康増進係 TEL 476-1111（内線130）